

シルバーとよなか

ふれあい

2002年9月

社団法人 豊中市シルバー人材センター

No.35

ご あ い さ つ



理事長
水上 利夫

本日は、平成十四年度社団法人豊中市シルバー人材センターの通常総会を開催いたしましたところ、会員の皆様には、大変お忙しい中、この様にたくさんご参加をいただき、誠にありがとうございます。

本年度の通常総会を開くにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

最近の新聞紙上では、「景気の底入れ」といった記事を時折目に致しますが、はたして景気は底をうつたのでしょうか。政府も、大変迷っ



豊中市長
一色 貞輝

豊中市シルバー人材センターの平成十四年度通常総会が開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

平素、皆様方には本市の高齢者福祉の増進に格別のご支援・ご協力を賜わり厚くお礼を申し上げます。

豊中市シルバー人材センターは、

た上で「底入れ宣言」をしましたが、景気が直ちに回復するかどうかは、引き続き、注視する必要がある、と先行きに大変慎重な見方をしています。私たちの経済実感としても、依然として、大変厳しいものがあり、事実、個人消費や設備投資も引き続き低い水準にあります。

また、私たちを取り巻く社会情勢も、医療・年金等の社会保障制度改革に見られるように、個人の経済的能力や自助努力を基礎とした給付や自己負担など、高齢者にとってより一層の自立や責任が求められる時代となつてきつつあります。

この様な情勢下ではありますが、当センターの平成十三年度事業実績を見ます と、会員数は一、四九一人、就業率は 七三・三

高齢者の就業と生きがいの場として設立されて以来、順調に発展をされ、今では千四百人を越える会員を擁する組織として、また、契約高が五億円を越えるなど、就業率、事業実績とも、着実な成果をあげてこられました。

これもひとえに水上理事長さんをはじめ、歴代の役員の方々並びに会員の皆様方のたゆまぬご努力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

今日、急速に進展する高齢化社会の中で、皆様方が豊かな経験と能力を生かされ、共に助け合いながら、積極的に社会参加をされますこと

%、契約高では、景気状況等から落ち込みを心配しておりますが、前年度に比して 九・七%増の五億五八四万円と、初めて五億円を超える実績を上げることができました。これもひとえに、会員の皆様、豊中市を始め、お客様のご協力とご支援の賜物と深く感謝いたしているところでございます。

また、昨年度は、当豊中市シルバー人材センター設立20周年を迎え、記念事業には、多数の会員のご家族も含めた皆様にご参加をいただき、大盛會裡に終了することができました。この場をお借りして感謝申し上げますと共に、二十一年目に向けて新たな気持ちで、センターの諸改革を本年度も積極的に推進してまいります。

中でも、二十周年にあわせて、

は活力ある地域社会づくりを進めていくにあたりまして、誠に心強い限りであります。

本市の六十五歳以上の人口は六万人を越え、高齢化率も十五%を越えております。

今後益々高齢化率が伸びていく中で、高齢者の皆さんが元気で活動できる施策の整備が求められるとともに、高齢者の就労を支援するシルバー人材センターの役割も一層重要になってくるものと存じます。

どうか皆様方には今後とも、時代の要請と市民ニーズに充分にこたえて頂き、「生涯現役社会」の実現に向けまして、一層ご尽力賜りますよう

皆様からご提案頂きました「独自事業の提案」を基に、本年度は「プロジェクト活動」として取り組み、新しい就業分野開拓を積極的に進め、職域の拡大と就業機会のより多くの提供により、会員がセンター入会して良かったと思っていただけますよう、運営面、就業面でさらなる成果をあげる努力をいたす所存でございます。

本日の総会には、平成十四年度の事業計画等重要な議案を提出いたしておりますので、十分ご理解・ご審議賜り、実りある総会にしていただきたいと存じます。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

大いに期待を致しております。

不況の影響等により、失業率も高く、就業の場の確保は大変難しい状況にありますが、本市と致しましては引き続き、雇用創出に努めて参りたいと存じますので、皆様方には、どうか健康にご留意頂き、いつまでも元気で働いて頂きたいと思っております。

最後に、豊中市シルバー人材センターの今後ますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。ご挨拶と致します。



平成 14 年 通常総会成功裡に終わる

今年度の通常総会は、五月三十日アクア文化ホールにいらっしゃるの会員の参加を得て開催しました。

「今年度の通常総会では、事業報告、収支決算報告、事業計画、収支予算等に加え、平成十四年度・十五年度の理事、監事の選任について議題とし、これからお客様、会員の皆様の満足度をあげる事業を推進していくための総会となりました。」

総会は、事務局の司会で進み、豊中市長一色貞輝さん、豊中市議会議長福本育馬さんから温かい励ましの祝辞をいただき、引き続き議長の選出に移り、議長に第十五班原健一さんが選ばれ、本年度の総

会構成会員一、五八六名に対し、出席会員八九〇名（うち委任状五〇八名）で定款にもとづく総会成立を確認したあと、議事録署名人に、第二班大森一男さん、第十八班金子勝蔵さんが指名され議事に入りました。

議案第一号は前任者の辞任にともなう現常務理事兼事務局長の役員選任について説明がなされ、全員異議なく承認された。議案第二号事業報告、議案第三号収支決算報告については、一括して説明がなされ、監事を代表して村田嘉康さんから監査報告が行われた。会場からは会員就業中に発生した事故の内容、契約金額の内、公共からの発注割合、未収金の取り扱いや拠点事務所開設に向けての進捗状況などについて説明を求められた。答弁のあと二議案とも異議なく可決承認された。引きつづ

き議案第四号事業計画案、議案第五号収支予算案については、関連していることから、一括審議となり、説明が行われた。両議案とも異議なく承認された。引き続き議案第六号役員選任が議題となり、「理事、監事選考委員会」を代表して宇都宮義典さんから経過について、詳細説明があり、新役員として、重任十三名、新任五名の候補者が紹介された。総会は、「理事・監事選考委員会」の推せん役員を異議なく承認した。議長から平成十四年度通常総会の議事はすべて終了した旨、伝えられ、議長の退任の挨拶のあと、選任された新役員による緊急理事会が開かれ、三役を決定するとともに、総会に報告し、新役員を代表して、水上利夫（理事長）さんから就任挨拶があり、総会は終了した。



豊中市議会議長
福本 育馬

社団法人豊中市シルバー人材センターの平成十四年度通常総会が開催されましたことを心からお喜び申し上げます。市議会を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様方には、平素から市議会活動を対しまして、何かとご支援・ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

「ご承知のとおり、わが国の平均寿命は、男女とも世界一となり、目前に迫った超高齢社会を、健やかで快適に暮らすことのできる社会とするには、われわれ地方自治体にとりましても、また、国全体の施策としても、緊急かつ重要な課題となっております。」

このようなか、貴シルバー人材センターにおかれましては、就業を取り巻く環境の整備に取り組むとともに、高齢者の社会参加や、健康の維持・増進、また、生きがいづくりのために、積極的な事業活動を展開され、福祉施策の推進に、多大なご

貢献をいただいております。

ここに改めまして、皆様方のご活躍に対し、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

また、昨今の社会情勢を見ますと、少子化の進展や長びく経済不況のもと医療制度や年金制度といった社会保障制度の改革も進められており、高齢者を取り巻く社会環境は、さらに厳しくなるものと予想されますので、高齢者の自立をうながし、社会全体でささえるまちづくりが必要不可欠であると考えております。このことから、貴シルバー人材センターの果たす役割は、ますます重要性が増

すものと思われ、今後の活動に大いに期待をよせるものであります。

市議会といたしまして、市理者と連携を図りながら、厳しい財政状況の中ではありますが、市民の皆様と協働で安心して暮らせる「ふるさと」として、いつまでも住み続けたい町、豊中の実現をめざし、一層努力してまいりますと存じますので、今後ともご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

結びにあたり、社団法人豊中市シルバー人材センターのますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

新役員紹介

五月三十日に開催された通常総会でもこう二年間、当センターの運営にあたる理事、監事が選任されました。新しい理事会の構成は次のとおりです。

理事長 水上 利夫(再)
副理事長 藤田 泰通(再)
中川 善博(新)
常務理事 濱本 光彦(再)

理事

岡本宗五男(再) 小林 秋男(再)
笹部 智慧(新) 高塚準一郎(再)
武井 利雄(再) 徳永美恵子(再)
平田 彰(再) 松永登美子(新)
行田 尊子(再) 野口 高茂(新)
藤澤 弘明(再) 湯川 善之(新)

監事

村田 嘉康(再) 西濱 温夫(再)

退任役員

長い間、役員としての職務、ご苦労さまでした。

理事

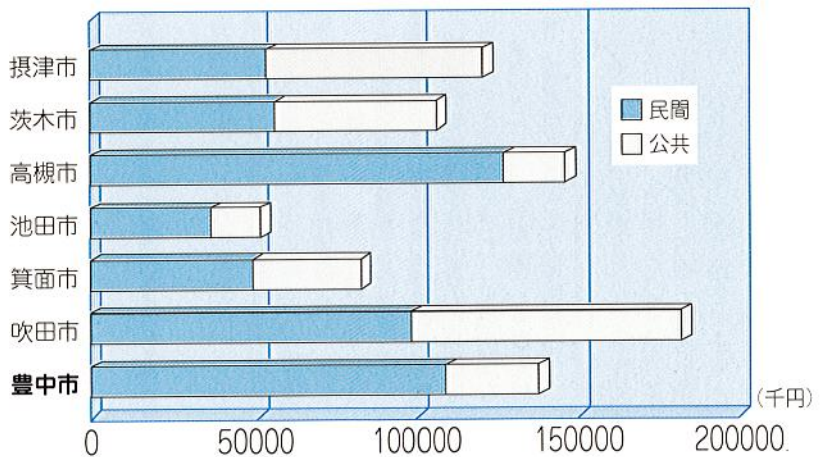
宇都宮義典 馬場 恵子
弘岡 陽子

賛助会コーナー

- (株)イーパック (日出町)
 - (株)三和ビル (庄内東町)
 - (株)高尾鉄工所 (島江町)
 - (株)加納 (中桜塚)
 - (株)オカキン (原田中)
 - (株)渡辺製作所 (名神口)
 - (株)湯山製作所 (名神口)
 - (株)太鼓亭 (箕面市稲)
 - (株)大川歯車製作所 (庄内宝町)
 - (株)内田スプリング製作所 (千成町)
 - 三栄源エフ・エフ・アイ(株) (三和町)
 - 日章アステック(株) (名神口)
 - 大阪理研工業(株) (神州町)
 - 名鉄観光サービス(株)梅田支店 (大阪市北区)
 - やまかつ(株) (大阪市北区)
 - 岸岡企業(株) (庄内西町)
 - 東栄精機(株) (浜)
 - 国産部品工業(株) (新千里東町)
 - (有)イーパック物流 (日出町)
 - (有)ティアンドピー (尼崎市小中島)
 - (株)メガネスーパー (本町)
 - 仏光山如来寺 (箕輪)
 - 正光山浄行寺 (走井)
 - 庄内神社 (庄内幸町)
 - 矢部文雄 (上野東)
 - 西岡孝 (本町)
- (敬称略)

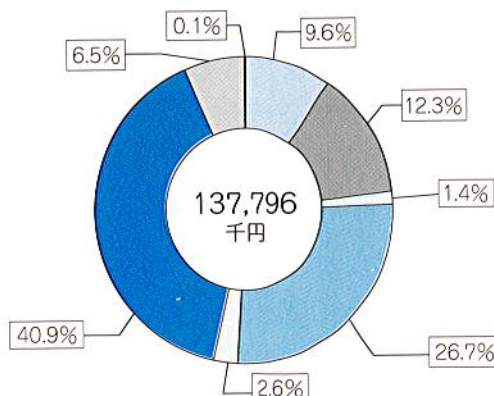
平成14年度第1四半期事業実績比較

	民間	公共	合計
摂津市	53,580	67,413	120,993
茨木市	56,175	50,519	106,694
高槻市	127,202	18,978	146,180
池田市	36,639	15,150	51,789
箕面市	49,333	33,884	83,217
吹田市	98,836	83,210	182,046
豊中市	109,313	28,483	137,796



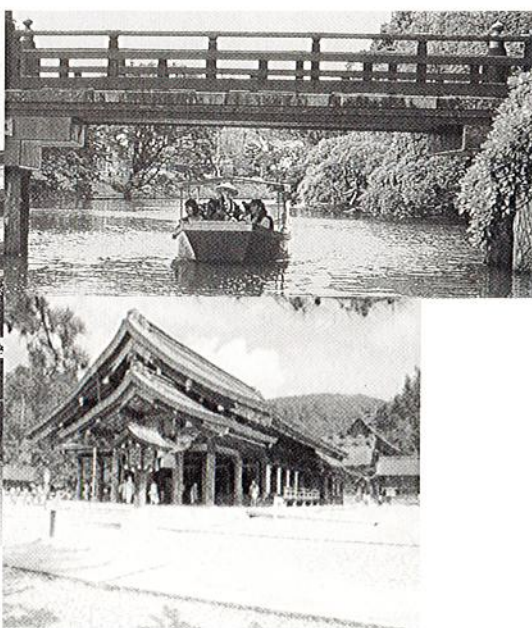
平成14年度第1四半期職群別契約金額比較

専門技術群	13,225
技能群	18,555
事務整理群	1,897
施設管理群	36,757
折衝外交群	3,523
軽作業群	54,765
サービス群	8,953
その他	121
合計	137,796



玉造温泉・名旅館「佳翠苑皆美」と 情緒たっぷりの「松江城堀川めぐり」の旅

出雲大社の正式参拝もあり、山陰の幸はもちろん、美味しいものもたっぷりの一泊バスツアーにお誘い
合わせのうえ、お申込ください。



と き 11月28日(木)～29日(金)
負担金 16,500円
募集人員 90名
申込締切 10月31日(木)

集合場所	時間
千里中央ジョモガソリスタンド (千里阪急ホテル近く)	7:20
庄内湯川家具前	7:30
豊中市役所	8:00

① 豊中市＝池田IC＝＜中国・米子＞＝**蒜山高原(昼食)**＝＜米子＞＝松江・遊覧船発着場～～
8:00頃 情緒たっぷりの松江城のお堀を、船頭さんの話を聞きながらのんびりと遊覧 11:30～12:30 14:00～

～～～(松江城堀川めぐり遊覧船)～～～遊覧船発着場＝**八重垣神社(参拝)**＝
玉造温泉随一の名旅館 ～15:00 15:20～15:50

＝**玉造温泉「佳翠苑皆美」(宿泊)**
16:00頃 お早めのご到着です、名旅館・温泉にてごゆっくりおくつろぎ下さい。

皆様で正式参拝 ワインの試飲もできます

② 玉造温泉＝**出雲大社(正式参拝)**＝**島根ワイナリー(見学)**＝**菱川(昼食)**＝
8:00出発 9:00～10:30 10:40～11:20 12:00～13:00

＝**お菓子の壽城(お買物)**＝＜米子・中国＞＝豊中市
14:00～14:30 18:00頃

昨年に引き続き、バスの乗降場所を3ヶ所予定にしています。参加を希望される方は、ご利用しやすい
出発場所を申込の際、合わせて連絡してください。ただし、希望集合場所にかたよりのある場合、出発場
所等の変更があります。

また、道路事情等により、行程を変更する場合がありますので、ご了承ください。



杖をたよりに

世間を見れば



第四班 徳永美恵子 杖を手にして

約二年半になる。初めての経験には思いがけないドラマが生まれる。私が、腰を手術したのが四〇年前。そのうちに腰が自然に曲がり今後の生活に不安を感じた。早速市役所の高齢者福祉相談の窓口を訪れてみた。当時は豊中市から希望者のみ無償の黄色の杖が支給されていた。手続きが済むと係の方は、私の躰に合わせて杖の寸法を調整して下さった。帰り際に馴れる迄は足元に注意して杖を持つ手に同時に荷物を持たない様に注意が有った。やつと自分の杖を持つ事が出来た。心の中で杖さんこれからよろしくと呟くと目頭が熱くなった。ぎこちなく歩きたずとバス停の横でポロリと杖を落とした。立ち止まっていると丁度お昼時のせい、頭は茶髪、首にはタオルを掛け、だぼだぼのスボン、三、四人の兄ちゃん達が私の傍で足を止めた。「杖をほか

してごないするねん」他の一人が「ホラホラ氣イつけや」と言い乍ら私に杖を渡して、何事もなかったように通り過ぎた。私は小走りに追いついてから、「おおきに、今初めての杖で未だ若葉マークです。どうも有難う」と後姿に頭を下げた。どうやら杖にも馴れて、或る日の事、お店の前に杖を立てかけて、メニューを見ているスキに気がついたら杖が消えていた。お店の方が直ぐに守衛さんに届けて下さり、店内アナウンスをしてみたが戻る事なく、私はとぼとぼと帰宅した。翌日梅田へ出て、Hデパートの老人介護用品の相談コーナーで再び杖を買求めた。今度は金八〇〇円也の名札をつけてもらう。それから、杖、杖と確認して気を引き締めている。バスの乗り降りには特に用心して運転手さんも見届けてくださる。電車が混んでいる時には一番後ろから乗り目立たぬように隅に立つ。空いた車内で席をゆずられるとおかけ様でおおきに、好意をお受けする。或る日の事、国道の信号が変わったので歩き始めると止まっているトラックのドライバーさんが「慌てなくていいよ」とニコニコ笑い乍ら私を見ていた。突然の事に思わず顔が赤くなる。住宅地の車道でもスパーの近くでも女性ドライバーさんは窓を一寸開けてお先へどうぞと私を優先して待たせて下さる。雨の日には杖と傘が持たなくて駅近くで、走って来る人に押された事も有り、

時には情けなくて涙する事も有りつらい時には常に、杖を手にした生活の中から考えさせられる事は限りない。今日も心から、おかげ様で、有難うございますと自分に常に謙虚でありたい。

「服部緑地公園清掃

ボランティア」

活動に参加して



第十七班 武井 利雄 五月二十五日

(人のふれあいを大切に…)

(土) アジア協会アジア友の会と当シルバー人材センターとの共催による、「服部緑地公園清掃ボランティア」活動に参加しました。目的は当シルバー人材センターのPRを、この機会にして、広く皆様を知って欲しいと思つて、参加したわけです。

天候にも恵まれ、想像していた以上の会員の皆様のご参加(十七名)を得、関心の深さに、感銘した次第です。

十時半頃から十二時頃迄、各地区分かれて、作業をしたわけですが、私の担当は、公園入口(南側)の遊園地周辺を四名で、「ゴミ袋」に、缶類と一般「ゴミ」に分けて、収集して廻りました。

川遊びに来ていた子供も、川の中の「ゴミ」収集に協力してくれたり、

ベンチに坐っていた親子の人が、「こ苦勞様、ありがと」と声をかけて下さり、温かい気持ちで、心地よい汗をかき、作業を終了することが出来ました。

担当した地区では、やはり「タバコ」の吸い殻が多く見受けられましたが、思つたより少なかったように思います。

十二時近くに夫々の地区担当の方が、「ゴミ袋をもって帰り、まとめ役の方が、「ゴミ」の分類をし、まとめておられました。

その後夫々の地区の状況報告をして、期待していた、昼食の、インドの本格カレーを頂きました。

昼食をしながら二部の参加者と会話を楽しみましたが、もつと話をする機会があったら、よかつたのではないだろうか。この為には共通の話題とが、子供さん向けの趣向も、必要ではないかと思ひます。

共催でやる行事はお互いに夫々のPRが出来、又何よりも、人々との、交流が出来た事が、一番大きな収穫ではないかと思ひます。

年をとるほど、人と人との交流を大切にしなければならぬと思ひます。自分がない、知識・情報等を多く得て、夢をもって、楽しい人生を送るのが、最高ではないでしょうか。

この機会を与えて頂いた事と、事務職員の大なるご協力に感謝し、是非次回も参加したいと思つております。

会員の皆様も是非一度ご参加下さるよう、希望致します。

花束をもらった日



第一班

山階 康雄

シルバーセ

ンターにお世話になり今年

で七年目になる。健康である以上頑張っています。M邸に除草として従事して七年間、毎月数日の仕事をこなしてきた。当初はグループ毎にリーダーに従いあちこちと回されていた時もありいつのまにか一人で賄う様になり数年たった。気が付いたら一番長いのがM邸で他数軒あるがされている。M邸で大半の稼働日数をしめていた。顧みれば七年と二〇で云うが長いものだ。私も七十歳を越えたとなんにも体力の衰えを少しづつ感じる様になる。また若い人には負けまいと頑張るが確実に体がついてこない。特に今年の夏は暑さに負けそつた。家内も時折「もう年だからそろそろ辞めたら」と云ってくれる。

金銭的な問題ではない。お客様が当りて待って頂いているから務めとして頑張らねばと自分に叱咤激励する。冬場より特に夏場がこたえる。地べたにはいつくばり流れる汗が目にしみる。ポトル一本がまたたく間に減る。ある時はケムシにさらされシクシクするのを我慢して作業を続ける時もあった。M邸での長い付き合いを続けるご家族との絆も忘れてはならない。娘さんが当時

学生の頃休憩時にはお茶とお菓子を差し出してくれ色々とお話（お話し）をしたものだが、十年過ぎればはや娘さんは嫁ぎ、子供さんを連れて実家へ時々帰って来る。たまに出会うと懐かしい思いだ。「おつちゃん、久しぶりやね。無理せん」とほちほちしてや一声を掛けてくれる。特にM邸では奥さんと一緒におやつを頂き世間話、趣味の話、家族の事等話はつきない。

この二時に安らぎを感じる。「もうひとがんばりや」と声を掛け合つ。数年前に奥さんが畠を作って欲しいと云いだし、小さい土地を開墾し耕し種を蒔き苗を植えた。上手に育つと共によろこんだりもした。シャカイモ、キユウリ、サツマイモ等々収穫時には結構色々頂いたものだ。ご主人が定年になり最近畠仕事は趣味としてなされている。

七月二十五日M邸の仕事を辞める事にした。最近腰痛が少々あり、特に暑い日が続き二日の仕事を涼しい午前中で二日続けた事もある。最後の日は「早めに仕事を終わって」と奥さんに云われ早々にやめる。手を止める瞬間七年間の仕事が終わったのだと淋しい気持ちが頭をよぎる。

裏の駐車場に車を止めているので除草道具をまとめて車に戻ると御両親、娘さんご夫婦、子供さん、全員がおられた。子供さんの手に花束が握られている。「長い間お疲れ様でした」声をそよそよと云われた。私もとまごいなから「お世話になり

ました」子供さんから花束を頂く。感無量。此の日の為に娘さんご夫婦が遠方より来て下さったかと。いつものおしゃべりの奥さんも無口になり頭を上下に振るのみ、目頭に光る物を見た。何故か此の場から早く立ち去らねばとセンチな気持ちをおさえながら早々に車に乗る。「では又の折、簡単な声を掛けて帰途に着く。七年間シルバーの仕事として働かせて頂いた喜びと感謝の気持ちをごみ上げてくれる。

「年寄りの冷や水」

また楽し



第三班

河 忠次郎

私は現在六十七歳、約四〇年間のサラリーマン生活をリタイアしたのは六五歳の夏でした。六〇歳で定年の会社で、私の所属部署の関係で六五歳まで勤務し比較的恵まれた境遇ではあったのですが、「好事魔多し」六五歳の四月に癌（前立腺、直腸癌）の摘出手術を受け、翌年八月には肝臓への転移のため再手術となり、それを機に退職しました。事後通院を続け漸く今年二月には担当医から月二回の検診で通常の生活に戻っても良いとの事でしたが、足腰が不安でフラフラしていました。

約四〇年間のサラリーマン生活が身につけているのが、精神的にストレスが溜まり、今迄経験しなかった足、腕の筋肉痛が感じられるようになったので、医師に相談すると、「あなたは今迄したことをして良い意味でも悪い意味でも身体を鍛えてきているから、急に今の様に静かな生活に入ったら変調を来しますヨ、ゴルフでも釣りで、好きなことをしなさい」とアドバイスしてくれたので、ます釣りは家内と二人づれで防波堤に通うようになりました。すると腕の痛みが軽くなり本当に医者と言つとおりでした。然し、収入は僅かな年金だけで経済的な不安は重くのしかかって来ます。家内のすすめもあり今年の四月に人材センターに入会したのですが、事務系の仕事はこの不況の中で望むべくもなく戸惑っている時に、ふと目についたのが「求人掲示板」の配管関係の職種で工場内雑役工募集でした。

センターの人に相談すると、私の経歴が事務系なので、務まるかどうか危惧されたようですが、とに角面接だけでも強くお願いして求人側の代表者に面接して戴きました。果たして、「希望年齢もオーバーして、経歴も異業種だから」と難色を示されたのですが、同行のSさんからも頼んでいただき「試用期間三日（三ヶ月）ではありませんが」の条件で、六月中旬から採用され、或る大手のポンプ製造工場内で機械周りの配管組立を、少しは下りながら楽しく手伝っています。精神的にも肉体的にもすこぶる快調です。

現在の企業、第一線は殆んど五〇代までの世代で支えられています。我々には今ある社会を、先人の

叡知を継承しながら支え、創り上げたと言ふ矜持があります。ノウハウの蓄積があります。

然し乍ら、それを前面に出し過ぎると彼等のプライドを傷つけることになり、却って反感を買うことになるでしょう。

我々に大切なことは、「さりげなく」「急がず」、力量を見せて行くことだと思えます。

但し、古い謔にもある通り、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」に徹して、彼等の面目をつぶさないように心する必要があります。

良い関係の中で、彼等の指示に従って仕事をすることで、物心両面の代償を享受している毎日です。

「服部緑地公園清掃

ボランティア活動」

参加報告



第十三班
岡本宗五男

(社)アシア協会アシア友の会との協賛という形で持たれた新たな「清掃ボランティア活動」は成功裡に終了しましたことを感謝を以て、ご報告いたします。

日時：二〇〇二年五月二十五日(土)

十時—十二時

場所：服部緑地公園レスト・ハウス

前を拠点に公園の西側

参加者：四十八名(大人—三十八名

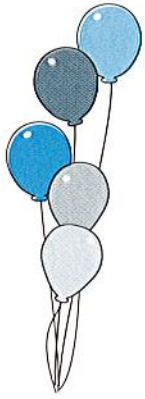
子供—十名)

内、シルバーからは十七名で、武井理事、山田会員をはじめ、多数の会員のみなさんと事務局長他三名の職員がボランティアとして参加して下さいました。

実施地区をA、B、C、D、E、Fの六つの地区に分け、各地区に六名ずつ割り振り、簡単なあいさつと注意事項伝達の後、ゴミ収集は燃えるゴミ、燃えないゴミ、ペットボトルの三つに分け、十時半から十二時まで集中的に行われました。各地区の作業結果は今後の参考のため公園の事務局に報告されました。

昼食には、インドのMs. チェンナマさんの用意された本格的インド・カレーとチャイが好評でした。そして、参加者からは、この企画を今回だけで終わらせないように、次回は十二月末か十二月初めに、みんなが楽しみに、子供たちも退屈しないような企画を考えてはどうかという話も出てきました。「親子・孫子でつくる工作」ということで、カイト風の凧を作ってはどうか、餅つきも、

会員の皆さんにはお忙しいところ貴重なお時間を割いてご参加頂き、ご協力本当に有難うございました。次の機会には更に多くの方が参加されますよう期待しています。



ショート・ショート



第十班
脇本 篤人

○阪急その1

「ねえ、次で一緒に降りてくれるんでしょ？」

「うん、しようがないなあ」

「次はシヨナイ、庄内です」

●電話その1

孫息子に電話を掛けた

「よっくん、元気？」

「ウン、ゲンキだよ」

「よっくん今何してるの？」

「…ヨックンネ、イマオヂイチャン ト デンワシテル！」

「？……！！！」

○阪急その2

「次で降りた方が近いんですよ？」

「うん、そうねえ」

「次はソーネー、曾根でございます。」

●電話その2

はじめてのケータイを持って外出。そこへ着電！

「オレの居るところ、ようわかったなあ！」と

二十世紀第二回目の通常総会が五月に無事終了しました。当シルバー人材センターの着実な発展を見ることは誠に喜ばしいかぎりです。

長年、徳永理事が担当してくださっていた「ふれあい帽子」欄は今回から会員の佐藤アツさんをお願いすることになりました。

徳永理事の長年のご苦労に對し、お礼を申し上げます。当センターの広報誌である「ふれあい」には会員の就業体験や就業についての意見交換の場を提供すべきだと考えていました。

今回、就業体験記事が投稿されているのは大変うれしいことです。

表紙は、いつもの事ながら、藤田副理事長にお願いし、作品を提供して頂きました。挿絵については、山階さんのお手を煩わしました。誌上をかりて御礼申し上げます。

(編集委員 岡本宗五男)

編集のしおり

想いのたけをふみに託して：

俳句

第二班 須藤 操

青田風集めて抜ける冠木門
雲海の果の茜の消えやらす
晒されし熱砂の上の平家蟹
葭屏風たった二た間の世を仕切り
被爆の火守り継ぐ老の原爆忌

第二班 平ノ上砂子

屠蘇一献卒寿むかえし夫と酌む
にぎやかに女礼者のどつと来る
歩くほどいえし姿を初夢に
景気よく吉兆さずく娘のえくぼ
悴かみし両手湯桶になだめけり

第四班 徳永美恵子

おひるねの赤ちゃんの指 吸うてみる
赤トンボブランコにゆれ 夏休み
コロコロとラムネの空ピン耳に当て
ラムネ飲む子等集りてピンを振り
あじさいや訃報が届く花のつゆ

第四班 村井實代子

わらび餅かきまぜながら母思ふ
大声で売り子呼びこむ土曜鰻
虫干しに単衣の着物シツケまま
土用入り押入れ引出し風通す
須磨の浜すたれし海辺土用波

第十班 朝倉 幸子

まだ少し試歩を延ばして遅春かな
若夏は眩しく来る如々として
晩涼やなぎし穴じ湖夕茜
麻蚊帳の編目に霞む朧る月
しとど降る幼妻らし迎え傘

短歌

第二班 須藤 操

汐満ちて来れば藻草揺れ初めて
あまた生命のうごめき出しぬ
漁りぶね入江に舫う舩に
おと無く散れる舟虫の群

鉄橋をわたる電車のゆるゆると
やがて停車す花火の宴

第十班 朝倉 幸子

尾の道の細き路地裏 石だたみ
ふみ子生みしはこの迷路かと
ふるさとの正月こそは楽しかり
年始の言 高下駄の音

身障の吾いたわりて来る年の
花見に誘うよき友変わらじ

第十七班 山下勝美

長病みし夫に待たるる思いして
在りし日の如家路急ぎぬ

春眠をむさぼりいれば裏山に

小綬鶏の声なつかしき故郷に寝て

夜の更けをメロディ低く枕辺に

夢とうつつのひとときを居り

子の便り待ちわびし夫のおもほえて

終日寂し父の日は過ぐ

若き日に我が中国に渡りしを

辛き思い出との給し亡母を想う

(戦前タイピストとして満鉄に就職)



囲碁同好会

囲碁随想

第三班 梶浦 武彦

うっとましい梅雨もそろそろ終りに近くなって今度は台風の進路を心配しなければならぬ季節となりました。今年は台風の来襲が多い年も知れませんが、被害の少ないことを願うのみです。

最近囲碁の人氣がより色々な国際棋戦を初めアマチュア棋戦杯に少年少女棋戦なども盛んになりつつあると伺います。このような隆盛は矢張り囲碁の奥深さ、民族、人種の壁を越えた素晴らしいゲームである証明でもあろう。さて、本同好会の夏期大会は八月二十三日の予定で準備を進めておりますので、その際は奮って多数の会員の御参加をお待ち致しております。

囲碁において良く経験する格言あるいは極意とも云うべき事柄があります。その中でも次の事例は大変参考になります。即ち「入界宣緩」というものです。これは相手方の大模様を消す場合の極意で相手方の勢力範囲に侵入する場合、余り深入すると却って相手方に、捕われてしまいますので、少なくとも捕われない境界があります。その事を指しています。その目安は相手方の勢力ある模様の左右あるいは前後の最先端を結ぶ線の中央辺りがその目安となります。

す。これが確実に相手方の模様を消す基準になります。従って相手方に深い勢力の壁を作らせないことを目標に打ち進めることも消しの極意とも云えるでしょう。蒸し暑さにもすれば体調を崩しそうですが健康に注意してこの季節を乗り切りましょう。



文芸サークル

「ふるおい」

五号発刊に寄せて

第十班 朝倉 幸子

一夏の炎日に「ふるおい五号」は元氣よく発刊する運びとなりました。事務局、会員の皆様の応援を心底より感謝致します。文芸サー

クルはその名の通り俳句、短歌、文章と文学全般にわたる作品としたのは私共同人の会の一人よがり、又専門主義に落ち入らないよう配慮し、多数の方にお読みいただけるものをとの志です。

さて人間は六十兆個の細胞を持って生まれ、成人と共に、毎日消滅再生をくり返しながら、高齡期を迎えると、再生能力は退化し失くす一方のようです。然し強い味方があります。脳細胞は使えば使う程増強されるそうです。分別力、思考能力は年をとる程に深まり、広がりを感じます。それは人生を如何に生きたかにも関連するものです。さあ、頭脳を鍛えましょう。考え、イマジンেশョンを広げ、高めましょう。それは働く意欲にもつながり、シルバライフの活性化に資することにもなるのではないのでしょうか。「知」の喜びを最大限に享受することに手



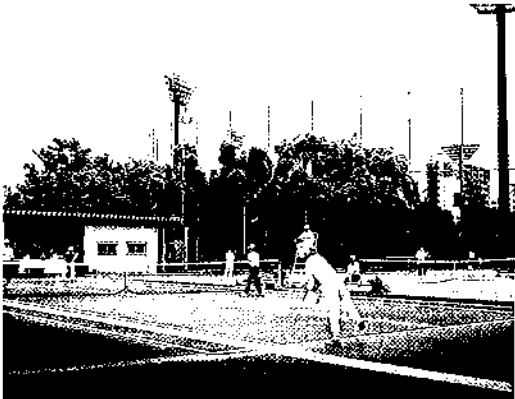
を伸ばしましょう。六十年代、七十年代、戦争もあり、ときめきの青春もあつたでしょう。それを書くことは、文学になり、ドラマにもなります。

毎月例会を開催しておりますので見学にお運び下さい。お待ち致します。連絡は左記の電話にお願ひします。
TEL 六三三四一五六九七

テニス愛好会

第十三班 藤田 泰通

豊島公園テニスコートで毎週一回夕方の二時間、ダブルスゲームを楽しんでいる。テニスコートは、同公園の南端に聳えるローズ球場に隣接しており、夾竹桃、樟、ポプラ等の樹々に囲まれている。夏は樹々の葉の濃い緑が目につく、秋には樟の黄葉が仲々綺麗である。



暑さの中二人で奮闘、薬剤散布班

夏真っ盛りの七月三十日、私、新米の「ふれあい」帽子は、初体験を前に久しく忘れかけた胸の高なりを秘めて家を出ました。取材させていただくのは薬剤散布班。暑さと時間との闘いがこの仕事。まずは受注七件のうち、服部西町のお宅と今在家町の西田さんの薬剤散布に同行した。取材は後



私は「ふれあい」帽子

程センターでさせていただくことに。松が元気になったと喜ぶ前田さん。西田さんじまんの姥目程には念入りに散布、発注者への気遣いがひしひし感じられた。

薬剤散布班のメンバーは廣澤孝司さんと加田誠さんの二人だけ。廣澤さんは盆栽歴三十年を誇り植木と薬剤に詳しい。加田さんはガッシリした体つききのスポーツマン。廣澤さんが散布を担当し、



加田さんは運転ということになっているが、加田さんも時に応じ散布を担当する。取材中も二人の信頼の絆の深さが伝わってくる。

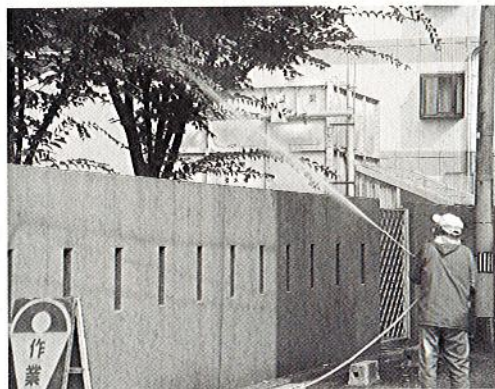
去年からは、センターに受注があると受注票が廣澤さん宅にFAXで送られてくる。そこから廣澤さんの仕事が始まる。発注者との日程の設定、限られた時間での効率のよい回り方等。アポイントをとるまでが勝負という。NHKの天気予報で当日の天気もチェックしなければならぬ。その上で本番の散布となる。

大体一カ月単位で受注をこなす、週二〜三回となる。一年のうち春から秋までの半年がピーク。朝八時、薬剤（今はトクチオン）



希釈液を三〇〇ℓのポリタンクに仕込み、モーター、ホースを車に積み込むのは加田さん、八時半出発、一時頃まで次から次へ散布に回る。安全のため合羽、マスク、ゴーグルをつける、夏場は逆に暑さにやられるから、せいせい厚手のシャツとマスクのいでたち。

暑さと時間と、いま一番は苦情との闘い。マンションなどの場合一週間前にチラシを持って挨拶に回り戸締り、洗濯物の取り込みを依頼する。風向きにより思わぬ方向に薬剤がまかれた時など苦情の電話が入ることも



あるが、この苦情処理も任せられているほどの人柄ときめ細かい仕事ぶりに脱帽する初取材でした。お二人の仲間がもっと増えることと願って……。

第八班 佐藤 アツ